

学校の伝統と地域の歴史・文化に相応しい施設整備のあり方について

100周年の記念性を象徴する「核となる場」を歴史、文化、景観から考えます。

●「100庭園」をつくる

- 創立100周年を記念する「学校の核」となる場を記憶の継承として整備します。
- 「80庭園（中庭）」と呼び「100庭園」と呼称します。(図-01)
- 学校創立時に築造された趣のある「石垣」、礼法室として利用されている築60年に及ぶ「葦荘」、数々の記念碑に加え、希望ある未来を標榜する「未来門」は歴史を象徴する財産です。(図-02)
- 「100庭園」はこれらの形象を有効利用した学習環境として整備します。とりわけ、石垣、葦荘を生きた資料として活用し、**歴史を感じる場**を計画します。(図-03)
- 学校を訪れた際、「はっ」とする見事な八尾山を望む景色が校地の北側に広がっています。この景観は本校が有する歴史遺産にも匹敵する財産です。(図-04)
- その八尾山を含む亀ヶ岳は古代山城の一つである「常城」が築かれたとされ、古くは、飛鳥、奈良時代までさかのぼる歴史を有しています。その景観を校地からの「**歴史と景観の軸**」として捉え、地域の歴史に相応しい施設整備を行います。(図-05)



(図-01)

歴史ある町の学校として相応しい外観を設え、地域の文化を表徴します。

●生徒の心の拠りどころとなる校舎をつくる

- 住宅レベルまでスケールダウンした低層棟(2階建)により、府中市の特徴ある町の景観を継承します。(図-07)
- 市場町として発展した府中市には商家の建物が町並みを形成しています。重厚な屋根、漆喰塗り込めの虫籠窓、袖卯建など、**町の景観的要素をモチーフ**にした校舎づくりを行います。
- 低層棟は、グラウンドに面した配置計画とし、雁木を設置することで屋外利用時の活用や、多目的に利用することでより**身近な感覚での校舎利用**を促進します。
- 中層棟(4階建)は、あえて即物的かつ単調なリズム感によるデザインを採用し、**異なる建築デザインの共存**で学校の歴史を表徴します。(図-06、07)



時代の異なる建築デザインの共存イメージ (京都府立医科大学) (図-06)



(図-07)

将来の改築を見据えたマスタープランを作成します。

●未来門が象徴する未来の学校づくり

- 100庭園で設定した景観軸による26号棟の配置計画は、将来の他の校舎の改築においても継承する、**マスタープランの基幹**と捉えます。発展的な計画により未来と歴史をつなげる計画とします。
- 校門の横に神々しく輝く未来門は、将来の生徒達を見守るモニメントであり、学校のシンボルです。その彫刻的存在を生かした将来の校舎の配置を計画します。
- 未来門を中心とした「**未来軸**」をあらたに想定します。そして、「歴史と景観の軸」と交点には、将来学校のコアとなるホール等を整備し、学校の伝統として相応しい**求心性の高い空間づくり**を行います。(図-09)



(図-09)

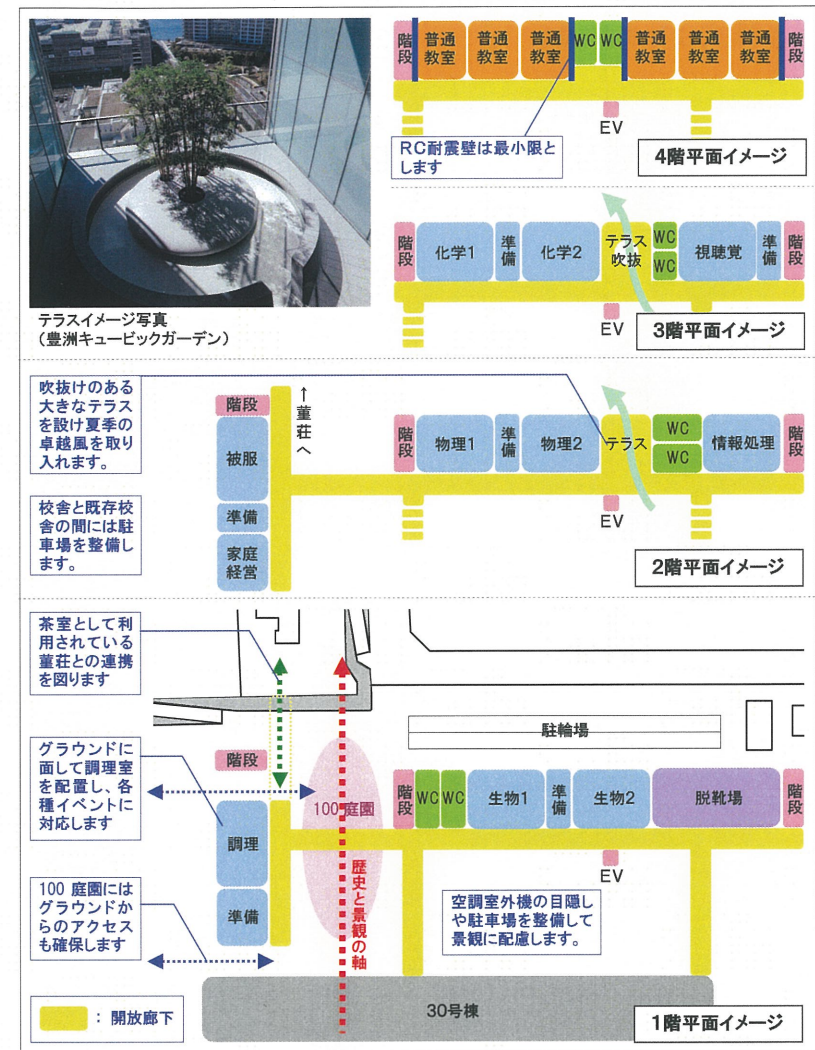
伝統校、進学校、町の文化を継承する学校づくりを行います。

●学校目標(文武両道、自治協同)や進学校として、町の伝統を継承する校舎

- 低層棟には、家庭科教室類を配置します。文化祭等のイベント時に**葦荘との連携**を図り、茶会等の利便性に配慮した計画とします。
- 校舎の3,4階には**テラス(3階床は吹抜け)**を設置します。生徒と先生の交流の場として、また、生徒間の協同活動に寄与する仕掛けを設えます。
- 進学校として伝統ある本校の普通教室は静粛で、授業に集中できる教室の整備が必要であると考えます。そのため、**普通教室(6室)は最上階に集中的に配し**、特別教室への移動動線に絡まない(教室前を通過しない)計画とします。(図-08)
- ゴムタイヤや建具金物など、地元企業製品を積極的に採用し、「ものづくり企業」の町としての文化を継承します。また、産地品である家具の仕様(納まり、材質)を検証し、校舎の(仕上、木造作)に反映します。

●多様化していく学習環境や学習形態に対応できる校舎

- 「これからの高等学校施設」(高等学校施設整備指針改訂に係る事例集検討委員会 2012)を参考にし、これからの**教育プログラムの対応した施設のあり方**を協議しながら計画を進めます。
- 今後、高等学校のカリキュラムで想定されることのひとつに、より専門性を重視する教科教室型への移行が想定されます。その際には、**普通教室をホームベースとして改修**できるように、耐震壁は最小限とし、将来の可変を想定します。



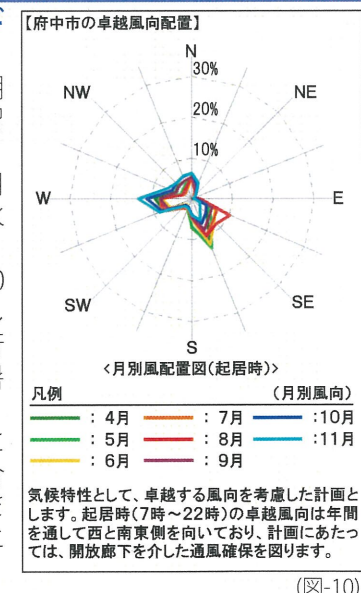
(図-08)

自然環境にやさしい施設について

自然エネルギーを活かした省エネルギーを実現します。

●府中の気候特性と自然エネルギーの有効活用 (図-10)

- 府中市の卓越風を検証し、中間期の自然通風の確保で、快適な学習環境を実現します。
- 雨水を便所洗浄水や濯水に利用する**雨水利用システム**を導入し水資源を有効活用します。
- 30号棟との隣棟スペースや100庭園の床面には廃材を再利用した**保水性舗装**や**緑地帯の整備**を行い、夏季の地表面の蒸発効果で暑熱を緩和します。
- 北側・南側からの安定した採光により、自然光と人工照明を補い合う**照明点灯区分の細分化**を行います。点灯時間や範囲を減らし、省エネルギーに配慮します。



(図-10)